

2019年度 第1四半期決算説明会 主な質疑応答

日時 : 2019年7月26日(金) 10:00~11:00

全体

Q: 1Q 売上高・営業利益の計画比は。

A:

- ・売上高は100億円レベル、営業利益は10億円レベル下振れ。主に器具、オートメーション、半導体、自販機などで下振れた。

Q: 2Q 見通しの状況は。

A:

- ・売上高は、エネルギーマネジメントの産業変電、オートメーションのFAシステム・駆動制御システムなど1Qから2Qへの案件延伸影響があり、さらに、自販機は国内顧客向けの展開が始まる為、対計画で上振れする見込み。

Q: 1Q 決算が想定以上に悪化した印象だが、期初からの変化は。

A:

- ・1Qは、前年に比べて市況が低迷することを計画に織り込んでいたが、想定以上に中国市況が低迷し、国内・アジアへ影響し始めた。特にコンポーネントにおける顧客の投資抑制や需要減少がある。
- ・中国自販機は、市場減速により工場・事業所が閉鎖し、そこに設置されていた自動販売機が他の場所で使用されるケースがあり、その分出荷が抑制され計画よりも下振れすると見ている。

Q: 通期の営業利益計画の考え方は。

A:

- ・全体的に、下期市況が不透明であり、通期計画を据え置いた。主要コンポーネントは不透明だが、パワエレシステムのシステム案件は増加する見通し。下期に向けて市況を見極め、固定費の抑制を含め、計画を精査する。

Q: 通期営業利益計画を据え置いているが、ハードルはかなり高いように思える。どれくらいのイメージか。

A:

- ・期初計画が目標ではあるが、市況を見極め、計画を精査する。最低でも前年度の600億円以上は達成したい。

Q: 固定費抑制の内容について、具体的に教えていただきたい。

A:

- ・工場間応援、海外人員の採用抑制、残業抑制等の人的経費、不急の投資や研究開発費等の削減、内製化を進め、損益の取込みを図り、2桁億円の経費削減を目指す。

Q：2019 年度営業利益の全社・消去が対前年で約 20 億円悪化する見通しだが、当初予定していた IT 投資、教育費等を削る余地はあるか。

A：

- ・IT 投資に注力する方針に変更はないが、中身を精査し、削減できるところは削減していく。

パワーエレクトロニクス

Q：低圧インバータと FA コンポーネントの 1Q 受注状況と 2Q 受注の見通しは。

A：

- ・国内の低圧インバータは顧客の在庫調整などの影響により 1Q 受注の月別はバラツキがあるものの増加傾向。2Q は例年の季節性もあり、1Q 比で増加する見通し。
- ・FA コンポーネントの 1Q 受注は、国内は対前年で数%減、海外は 2 桁%減となる。2Q 受注は 1Q 受注より増加する見通し。サーボは輸出向け機械に搭載される比率が多く、昨年度以降底這いが続いている状況。PLC はプラント用途で約半分使用されていることもあり、システム案件の好調を背景に計画通りに受注できている。

Q：システム案件の 1Q 受注の中身と、計画比は。

A：

- ・システム案件は、対前年 250 億円強増加。うち、パワーエレクトロニクス・インダストリーが大半で、パワーエレクトロニクス・エネルギーは盤事業（富士 SMBE）が増加。
- ・計画比では、100 億円程度増加。

Q：今後、老朽化設備の更新需要が後ろ倒しする可能性は。

A：

- ・顧客は、工場設備の事故等の予防保全を重視する傾向があり、足元は下期案件を上期に前倒しで受注している。また、データセンター市場では、外資系企業の国内市場参入により好調であることに加え、当社は変圧器、UPS、盤など電気設備丸ごと受注が可能のため、引き合いが強い。

Q：スクラバの受注状況は。計画以上の受注は期待できるか。

A：

- ・1Q 受注は 10 セット強、これまでの累計受注実績は 60 セットを超えている。市況悪化の影響は受けておらず、計画通りに受注活動が進んでいる。
- ・顧客におけるスクラバ搭載は原油価格の変動に大きく影響を受けた為、春先で受注先延ばしの傾向があったが、夏場以降の需要増を期待している。

電子デバイス

Q：パワー半導体の 1Q 受注と分野別状況について対前年、対前 Q は。

A：

- ・1Q 受注は、為替影響を含み対前年 9%減少。2018 年度 1Q の先行発注影響と為替影響を除くと、3%減少。対前 Q は、為替影響を含み 6%増加、為替影響を除くと 9%増加。
- ・分野別は、対前年で産業分野は 20%弱減少、自動車分野は 15%程度増加。対前 Q では両分野とも増加した。

Q：パワー半導体受注の1Q月別推移と2Q見通しは。

A：

- ・1Q受注は、計画より下振れしており、国内外の産業機械向けは底這いが続いているが、海外の風力・太陽光など再エネ分野向けは堅調に推移している。
- ・2Q受注は、自動車分野の新規顧客への納入開始により、対1Qで増加する見通し。

Q：パワー半導体の1Q受注は、対前Qで見れば増加しているが、1Q売上は、対前Qで減少している理由は。

A：

- ・1Q売上が対前年4Qで減少している要因は為替影響で、それを除けば横ばいとなる。顧客ごとに要求納期は異なっており、また堅調な再エネ分野向けについては納期が長い先行発注分も含まれている影響で、受注と売上に差が生じている。

Q：自動車向けパワー半導体の足元の受注状況と引合い状況は。

A：

- ・計画通りに受注できている。引合いも、昨年に比べ、案件は増加している。最終的な確定までは至っていないが、3年先までの分の内示はいただいている。

Q：パワー半導体の2Q売上の見通しは。2Q売上計画分は受注済みと考えて良いか。

A：

- ・2Q売上は、対前Qで5%以上の増加を見込んでいる。パワー半導体のリードタイムは受注から売上まで1~2ヵ月程度掛かるため、9月分については今後の受注も含まれる。

Q：パワー半導体の稼働・在庫状況は？

A：

- ・稼働状況は前工程全体で85~95%。8インチについては自動車向けが好調に推移しており、ほぼフル稼働の状況。
- ・在庫状況は、社内は計画通り、顧客についても適正レベルと考えている。

Q：半導体市況の回復見通しは。

A：

- ・産業向けパワー半導体は不透明だが、xEV向けは3~4年前からスペックイン活動を進めており、顧客計画からみて売上につながると見ている。

Q：ディスク媒体の2Q以降の見通しは。

A：

- ・2Q以降は横ばいの見通し。

以上